

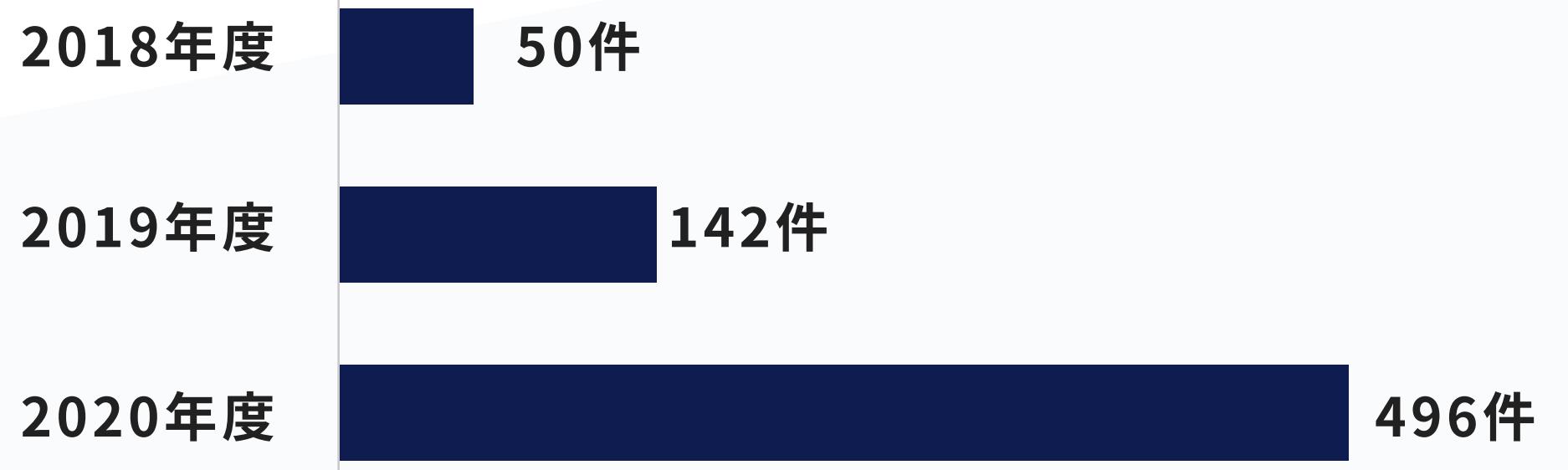
DXを推進するのはITベンダーじゃない！？

# 落とし穴にハマらない 現場から始めるDX



# 加速するデジタル化の背景

日本は「デジタル競争力ランキング※」で世界27位  
デジタル化の遅れはコロナ禍で顕著となり、  
国主導で改革を進める姿勢となった。



日経新聞HP掲載の「DX」関連人事情報数

多くの企業で「デジタル推進部」などの  
DXを推進するための部署が設置されています。  
経営者もその必要性を認識していることがわかります。

# DXの定義

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して顧客や社会のニーズとともに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することと定義しています。

※2018年 経済産業省 デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドラインより

## DXとは、デジタルツールを使って

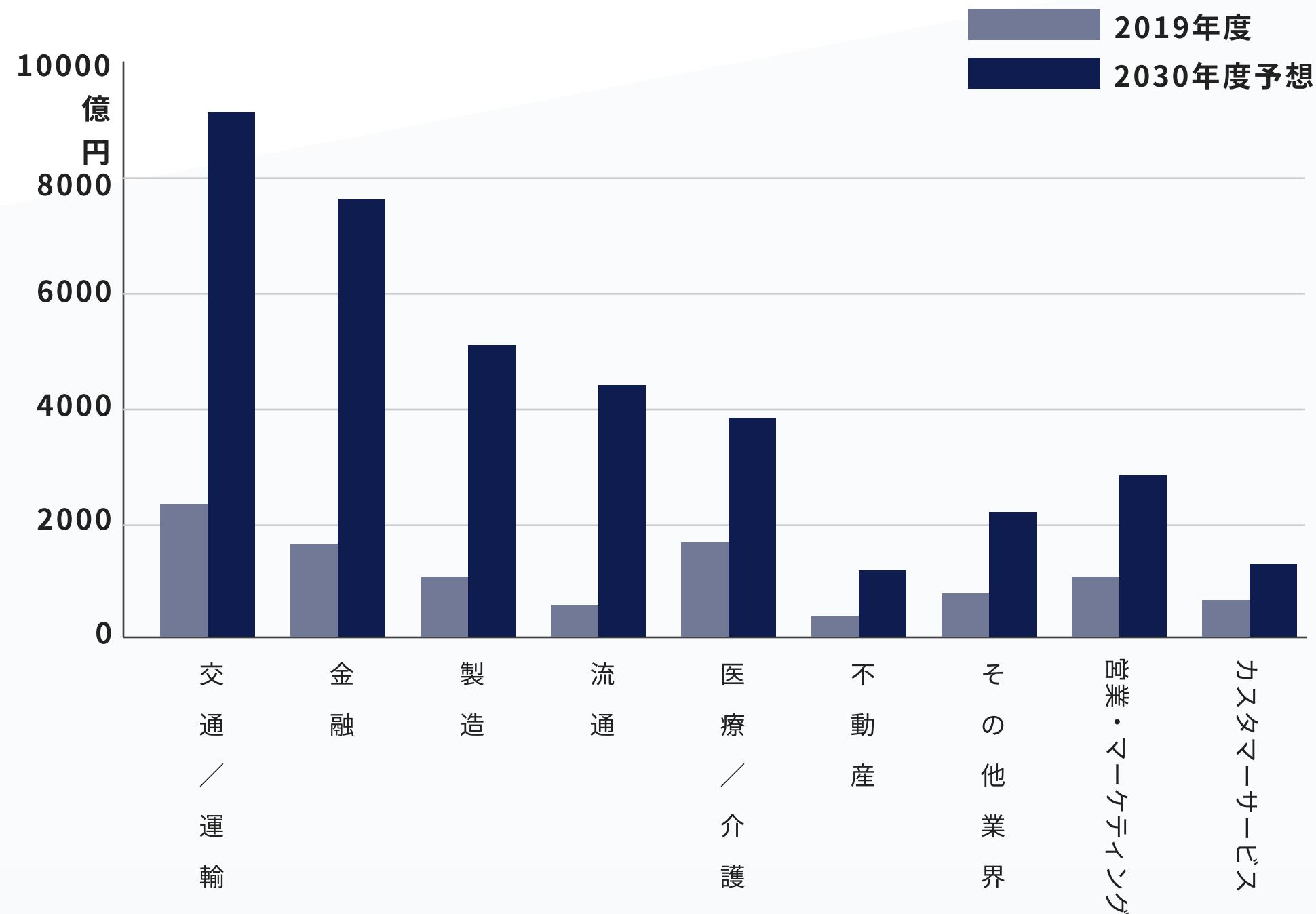
- ・ 製品
- ・ 業務
- ・ 企業文化
- ・ サービス
- ・ 組織
- ・ 企業風土
- ・ ビジネスモデル
- ・ プロセス

変革（トランスフォーメーション）すること

デジタルツールを使っているだけでは、トランスフォーメーションしたとは言えません。  
あくまでデジタル化は手段であり、デジタル化していくプロセスの中で企業に変

# DX市場の規模予測

DX市場予測では市場全体で2030年までに2019年比で3.8倍までデジタル投資額が伸長すると見られ特に人手不足やデジタル化の遅れが顕著な交通/運輸市場において4.1倍にも上る試算となっています。



出典：富士キメラ総研「2020 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望」

しかし、  
DXはトレンド化し、市場規模が大きくなっているが  
成功ばかりではありません。

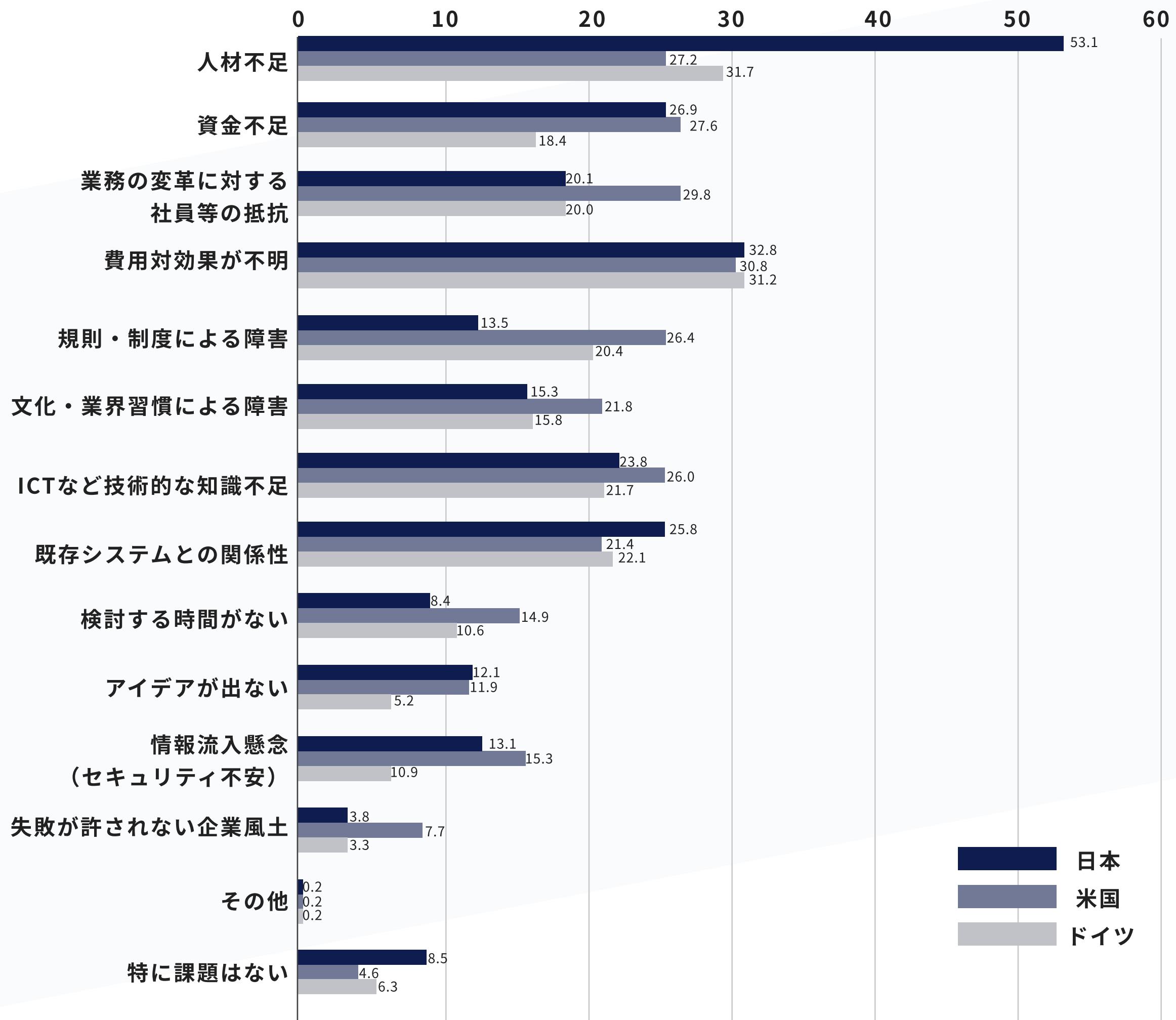
# DXを始めたてでよくある失敗例

担当部署の設置や投資額を増加させDXに取り組む企業が急速に拡大する一方で不適切なゴール設定や現場の意識不足から、"残念なDX"パターンに陥るケースが散見されます。

陥りがちなパターン	失敗例
よく分からぬけど 始めてみた	聞いたことのあるAIやRPAなど、最新技術を使ったPoCを実行してみるもの、解決したい課題などゴール設定が曖昧なため検証結果を活かすことができず、コストと成果が伴わない。
必要性を叫ぶが 取り組まない	トレンドに乗り「DXのために何かするべき」と会議で発言するものの、自分の担当業務への影響が出そうになると反対する。
トップダウン命令後 放置	経営層より「DXを進めよ」との司令は出ているものの、具体的な解決すべき課題や対象範囲などの指示がなく、現場任せになつており現場も何から初めていいか分からない。
形式だけ整備したが 実態無し	「DX推進室」などの部署を立ち上げ、関連するセミナーを受講するなどDXに取り組む姿勢を示すが、具体的な議論や作業に取り組めていない。
変革を恐れる	デジタル化による"変革"がDXのあるべき姿だが、これまでの企業風土・慣習を変えることを恐れ、影響の少ない小手先の業務のIT化に留まる。

# 日本におけるDX推進課題

日本においてDXを推進する上で最も大きな課題は、**デジタル人材不足**  
米国、ドイツと比較しても突出しています。

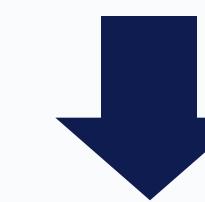


# デジタル人材が不足している背景

近年のシステム開発はSoRからSoEへシフトしシステムライフサイクルが短期化。スピーディな開発と顧客ニーズの取り込みを求めた結果、自社による内製開発を進める企業が増加したが、システム開発が可能なデジタル人材が圧倒的に少ない傾向にあります。

## System of Record(SoR)=記録のためのシステム

- ・ ウォーターフォール型開発
- ・ ITベンダーに依頼
- ・ 開発期間長め
- ・ システムライフサイクル長め
- ・ 社内業務効率化やコスト削減がメイン
- ・ 顧客情報管理、販売管理などの発生した情報を登録しておくシステム



## System of Engagement(SoE)=繋がりのためのシステム

- ・ アジャイル型開発
- ・ 開発期間短め
- ・ システムライフサイクル短め
- ・ 顧客との関係を深めてビジネスに直結する
- ・ エンゲージメントを目的としたシステム
- ・ お客様が直接操作するECサイトやモバイルアプリなど売上に直結するシステム

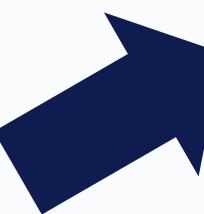
# 非デジタル人材⇒ デジタル人材への成長

デジタル人材を獲得するには、数少ないエンジニアを採用するしかないと思われてきましたがローコード開発手法を取り入れることで、非デジタル人材と思われてきた現場のメンバーをデジタル人材に成長させることができます。



## これまでのデジタル人材

IT企業やユーザー企業の  
情報システム部門に従事する人材



## これからのデジタル人材

最新のデジタル技術を活用して、  
企業に新たな価値を生み出す人材



# ローコード：Low-Codeで解決

ローコード開発とは、アイテムのドラッグ＆ドロップといった画面上での直感的な操作やボタン操作など設定による開発を基本とした手法です。システム構築初心者でもプログラミング知識不要で開発を始めることができます。将来的に画面操作以外で実現したいことが発生した場合には、プログラムを使った開発による対応が可能です。

## ローコード開発のメリット

- 開発の高速化、短縮化
- コスト削減
- 人為的なコーディングミスの最小化
- 引き継ぎ、保守性の向上
- 他システムとの連携といった拡張性

## 他開発手法との違いは

ノーコード	ローコード	プロコード
プログラミング知識が全くなくとも画面での操作のみで開発が完結するスピーディな開発の一方、実現できる機能は少ない。	画面での操作を基本とした開発だが、必要に応じてコードによる開発を追加することができるスピード開発と柔軟性を兼ね備えている。	プログラミング知識が必須であり、画面のズレを直すだけでもコードを修正する必要があるが、0から自由な設計・開発が実現できる。



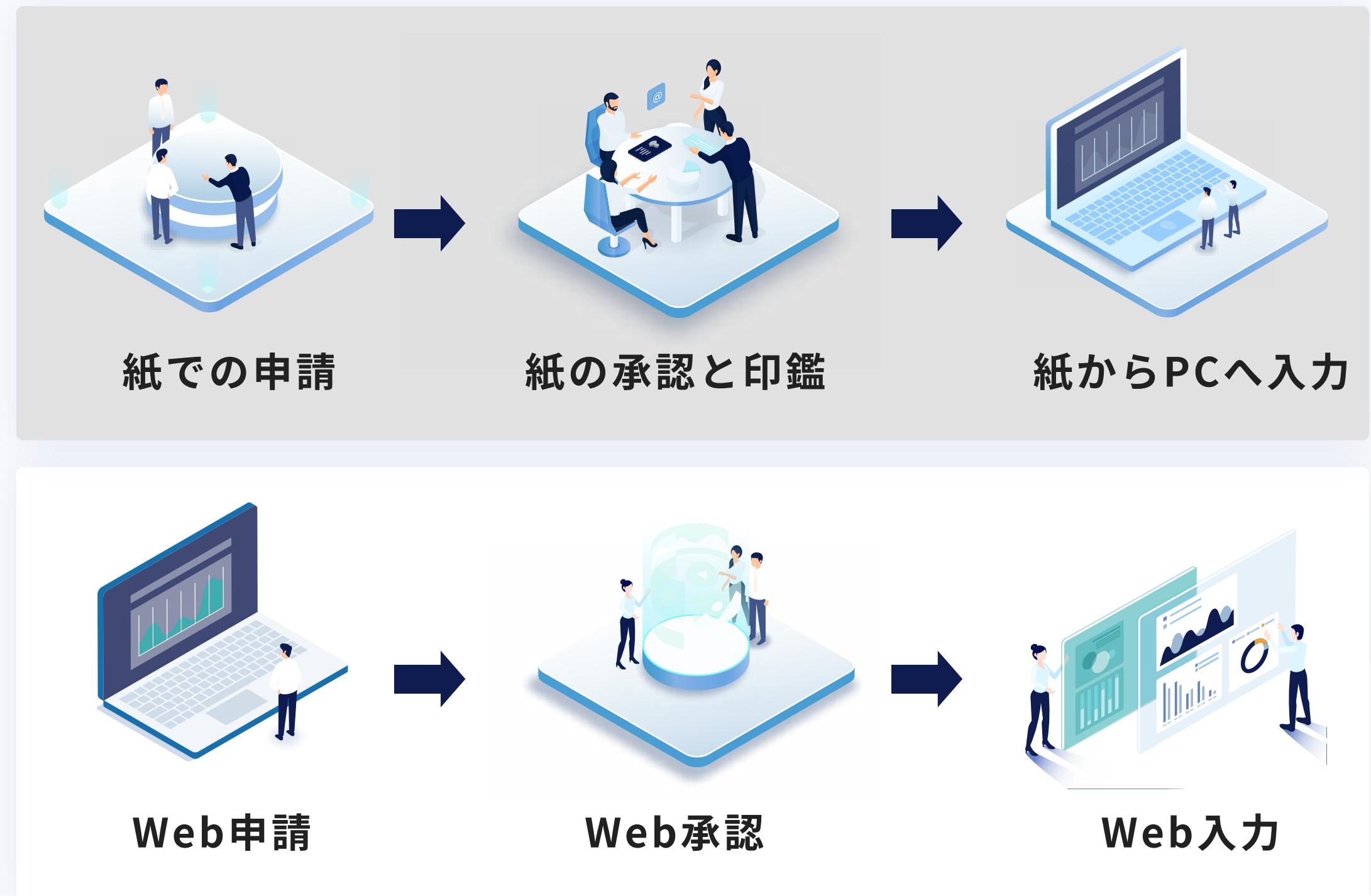
# なぜ現場が取り組むべきなのか

前述の"残念なDX"パターンは、デジタル化の恩恵を最も受けやすい現場部門の意識改革とローコード開発ツールによる開発スキルの向上により、多くのケースで予防することができます。

陥りがちなパターン	現場による開発がもたらすメリット
よく分からぬけど 始めてみた	実作業レベルで課題を抱えている現場が、自らそれを解決するシステムをローコードで開発することで、解決したい課題と出来上がるシステムのズレが発生する可能性が低くなる。
必要性を叫ぶが 取り組まない	ローコードであれば開発難易度が低く成果として現れるスピードも早いため、短期間で多くの実績とノウハウを獲得でき、より大きな課題解決に取り組む足掛かりになる。
トップダウン命令後 放置	身近な課題をローコード開発で解決することで、課題に対するローコード開発で解決するアプローチを認識し、デジタル人材としてDXを経営に提言することができる。
形式だけ整備したが 実態無し	取り掛かりやすいローコード開発で自ら手を動かして開発する経験を得ることで、その後のセミナーなどの機会をデジタル人材としての視点で聴講し、活かすことができる。
変革を恐れる	ローコード開発で実現する簡単なデジタル化が自分の業務を大幅にスピードアップさせることを認識し、社内で変革を恐れる者に対し変革経験者としてアドバイスができる。

# アナログ業務のデジタル化

代表的なアナログ業務といえば紙と印鑑による申請／承認が挙げられます。これらの業務をWeb化するだけでもプロセス全体の見直しの機会となり、デジタル化への足掛かりとなります。



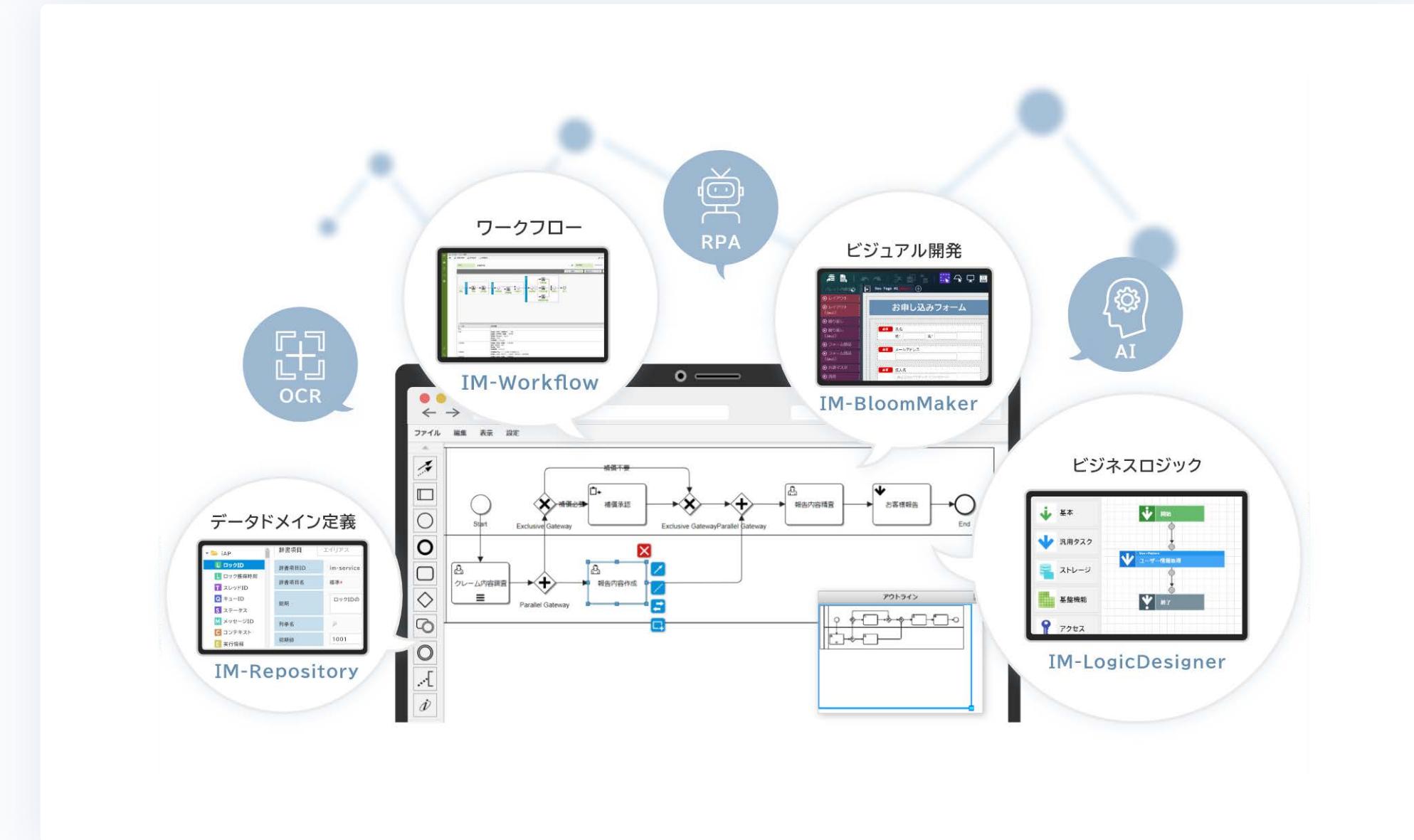
DXに取り組もうとしている企業は非常に増えてきていますが、DXの正しい意味やゴールを明確化せず見切り發車気味にスタートし、失敗しているケースが多く見受けられます。デジタル人材が少ないことが大きな要因として挙げられるがエンジニアを採用したり、育成したりするのには時間とコストが掛かります。

スーパースターが現れてDXを進めてくれるのを待つのではなく現場のメンバーをローコード開発ができるデジタル人材に成長させ、小さな業務をデジタル化することがDXの最初のステップです。

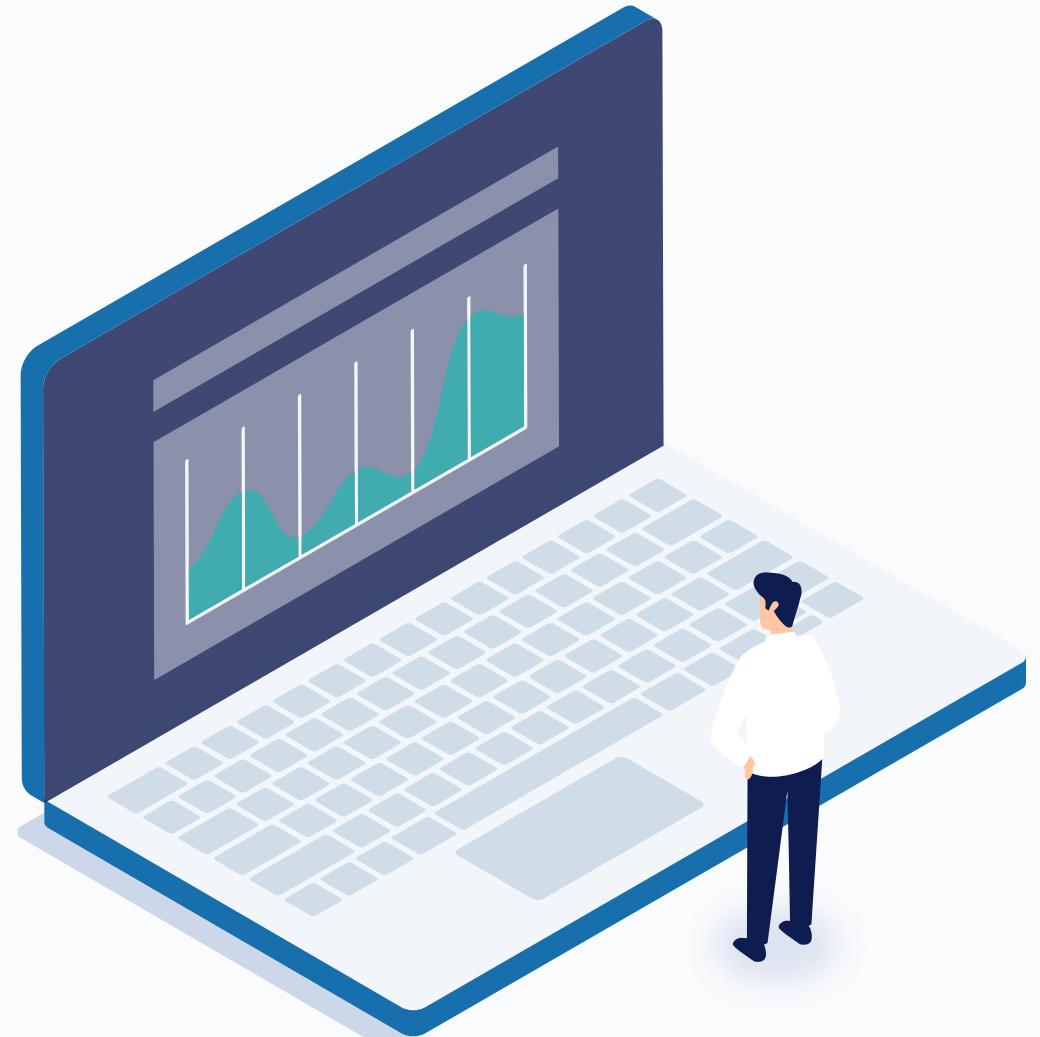
# サービス概要

# Accel-Martとは

Accel-Martは、プログラミング初心者から上級者まで、業務用アプリを開発できるプライベートクラウドサービスです。プログラミングの知識がなくても簡単に業務用アプリを開発できる「Quick（クイック）」と、プログラミング知識のある方向けに業務用アプリに必要な開発環境を充実させた「Plus（プラス）」の2種類をご用意しています。



# プロレベルの業務アプリケーションを簡単に構築



## すぐに始められる

事前に構築されたテンプレート、ドラッグ＆ドロップでの簡単操作、すばやいデプロイ機能を使用して、今すぐアプリケーションを構築できます。Accel-Mart Quickはお申込みから最短30分でご利用可能です。

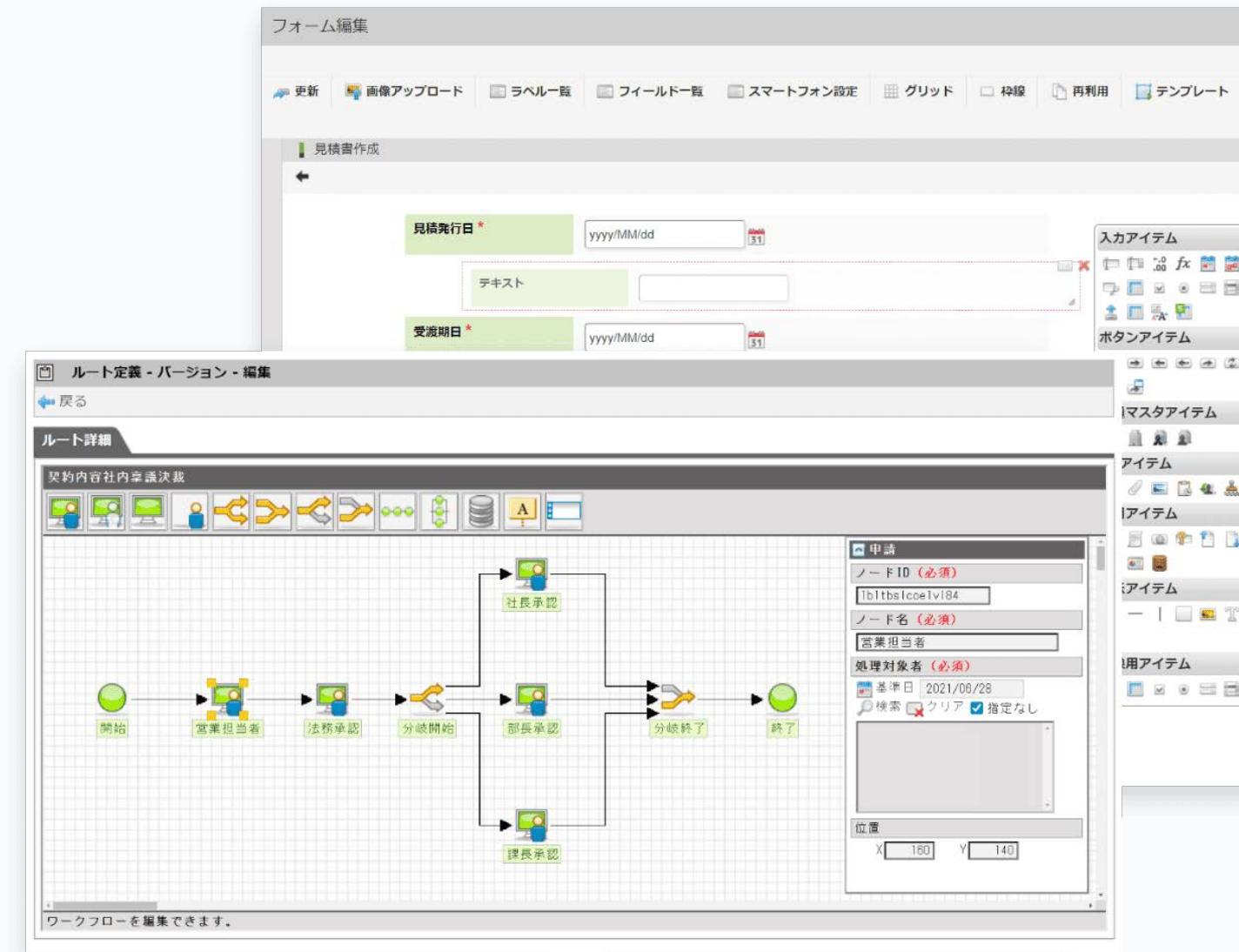
## アプリを構築する

intra-martのローコード開発を利用して、お客様の業務に合わせた適切なトレーニングにより、現在の業務部門担当者をシステムに精通した専門家に変えることができます。事前に構築されたUIコンポーネントや業務ロジックなど、以前は開発担当者しか活用できなかった高度な機能も利用できます。

## 開発者による拡張

簡易なフォーム画面から複雑な業務画面まで、プログラミング知識がない方でも開発可能です。intra-martのローコード開発機能ではドラッグ＆ドロップなどの操作で簡単にシステムを構築可能で、業務の変化にも柔軟に対応することができます。

# 様々な業務パターンをカバーするワークフロー



## 多彩なテンプレート

様々な用途に合わせた業界・業種別のワークフローテンプレートを100種類以上ご用意しています。テンプレート以外にも、自社にあった申請・承認画面をノンプログラミングでドラッグ&ドロップで簡単に作成することもできます。

## 複雑な承認ルートを簡単実現

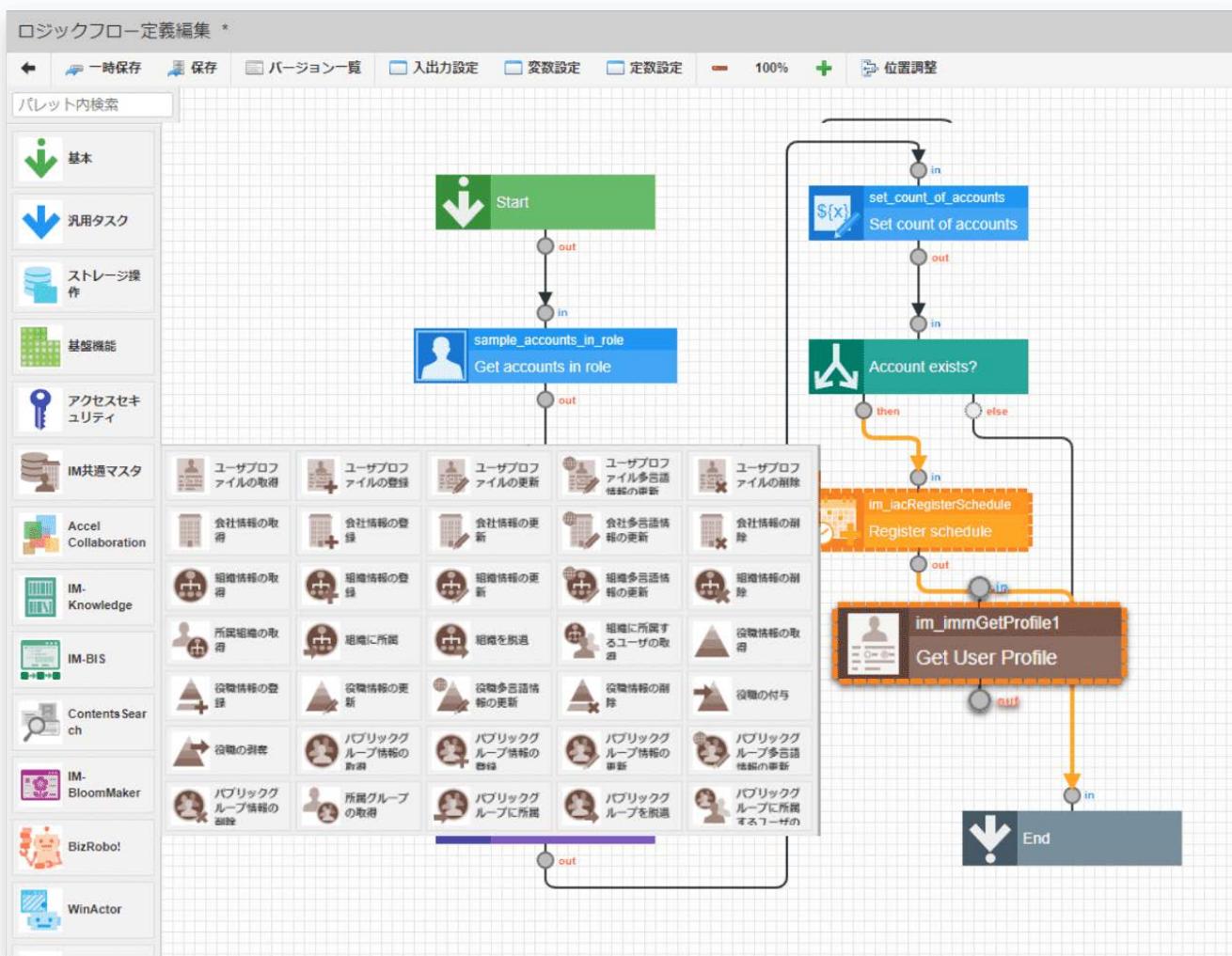
簡易なワークフロー機能を搭載したプラットフォームはもちろん、他のワークフローシステムでもここまで の自由度はありません。複数部門による申請・承認や条件分岐から別のワークフローへの連携まで、複雑な申請・決裁などの承認ルートも簡単に実現できます。

# 柔軟につながる、システム連携

## 柔軟につながる、システム連携

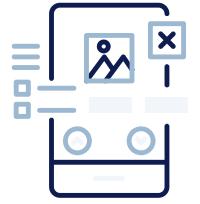
業務プロセスの中には、人や紙によるアナログ作業や複雑な処理も混在しています。イントラマートには、これらの処理を円滑に行うための、AI・RPAなどのデジタル技術や様々な既存システムや他システムと連携を可能とするコンポーネントを準備しています。

取引先を含めた、複雑なオペレーションもシームレスにこなすことができます。

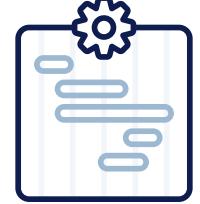


# 機能一覧

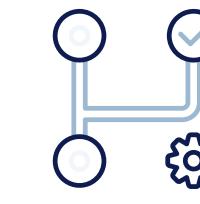
Accel-Martには、豊富な機能が充実。  
ローコード開発、BPM/ワークフローなど業務アプリに欠かせない機能をお使いいただけます。



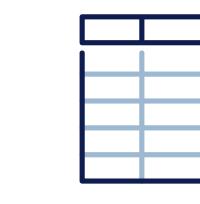
ローコード開発



ワークフロー



BPM



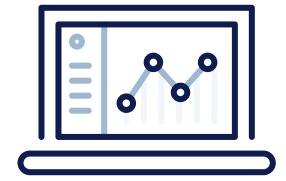
スプレッドシート



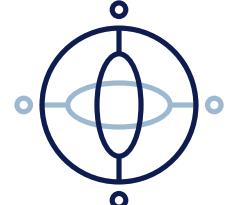
チュートリアル



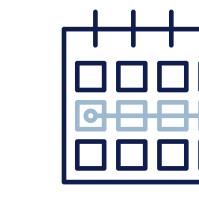
業務テンプレート



社内ポータル



Wiki



スケジュール



会議室予約



社内SNS



他システム連携

インフォメーション

認証・認可

マスタ管理

ドキュメント管理

全文検索

表・グラフ自動作成

# 人数規模・使用用途で選べる2プラン

利用いただく人数規模や使用したい項目数に応じて柔軟に対応できるように2つのプランを用意しています。



## Accel-Mart Quick

Accel-Mart Quickは少数規模からご利用いただけるエントリープランです。申し込みから最短30分で導入可能です。プログラミング初心者でも安心してご利用いただけます。

### こんな方にオススメです

- 業務用アプリをコストを抑えて開発したい
- 業務プロセスのデジタル化・自動化を実現したい
- なるべく早く業務用アプリを開発したい



## Accel-Mart Plus

Accel-Mart Plusは全社規模向けに推奨するプランです。クラウド上で本格的に開発することができます。

### こんな方にオススメです

- 全社規模で本格的に業務システムを開発・利用したい
- システム構築にかかっていた時間/コストをカットしたい
- 全社レベルでの大規模な業務改善から改革をしたい

料金・プランの詳細は下記をご参照ください。

<https://www.accel-mart.com/price.html>

## Accel-Mart Quick 導入の流れ

- 01 試用  
31日間すべての機能を無料でお試しいただけます。
- 02 本登録  
トライアル版終了後、本登録が完了すると有償でのご利用開始となります。
- 03 開通  
トライアル版のデータを引き継ぐことも、新規で環境を用意することもできます。
- 04 運用拡大  
サービス導入効果を最大化し、成功に導くためのカスタマーサクセスをご用意しています。

31日間の無料お試し実施中

[https://admin.quick.accel-mart.com/imart/accel\\_mart\\_quick\\_admin/entry](https://admin.quick.accel-mart.com/imart/accel_mart_quick_admin/entry)

## Accel-Mart Plus 導入の流れ

- 01 お問い合わせ  
まずはお気軽にお問い合わせください。お客様の課題をヒアリングさせていただきます。
- 02 お見積り・ご発注  
担当営業よりお客様にあったプランをご紹介させていただきます。
- 03 利用開始  
お申し込み日より最短5営業日で、すぐに使える環境をご提供します。
- 04 お支払い・お振り込み  
月額支払と開始月一括払いのどちらかを選択していただきます。

お気軽にお問い合わせください！

<https://www.accel-mart.com/contact/>



まずはお気軽にお問い合わせください。

弊社担当がお客様にあったプランをご紹介させていただきます。

<https://www.accel-mart.com/contact/>

31日間の無料お試し実施中

<https://www.accel-mart.com/trial/>